

# 子どもの居場所ル・コパン 2月

## バレンタインクッキング

2月10日土曜日、高瀬町公民館比地二分館でバレンタインクッキングを開催しました。今年も「チョコチャンスコーン」づくりに挑戦！バレンタイン前ということもあり、友だちや家族で参加してくれました。

このスコーンの作り方の特徴はビニール袋を使っているところです。「手をなるべく汚さない、調理道具も最小限で洗うものが少ない！」です。途中で袋が破れたり、粉が袋からこぼれたりとおバウニングも起こりましたが、こんな体験も笑い話で終わります。袋の中で形を整えたら三角や四角、好きな形に切ります。大きな包丁で頑張りました。



△小さな手で頑張りました。



△大きな包丁で硬いバターを切ることが出来ました。



△親子でモミモミ～



△こちらでもモミモミ～

200℃のオーブンで15分、調理室が甘い匂いでいっぱいになりました。  
焼いている間にみんなで片付けをして、あとは焼き上がりを待つばかり。



出来立てを1つ試食しました。  
サクサクのスコーンが出来ました。  
粗熱がとれたら、保存袋に入れておくと  
次の日、少ししっとりしたスコーンを味わ  
うことが出来ます。チョコペンでデコレー  
ションした子もいて、楽しいバレンタイン  
クッキングになりました。  
来年は、ガトーショコラかな？  
チョコクッキーかな？  
お楽しみに～。

# 令和5年度 人権教育講演会

令和6年2月16日金曜日、高瀬大学との共催で人権教育講演会を開催しました。

講師は、まんのう町出身の写真家、平井慶祐氏を講師に宮城県石巻市からリモートで開催しました。演題は「10年の幸福写真～10YEARS AFTER 3.11 様々な苦難を乗り越えた～東日本大震災から10年復興に向けての記録～」ということで、石巻市へ移住する前の活動、石巻市での活動、東日本大震災後の活動についてお話いただきました。



平井さんは、石巻市で活動する以前、写真家としてネパールやミャンマーなど、数々の海外で人や風景を撮影し、撮った写真を撮らせてもらった人へ届けるということをライフスタイルとしてされていたそうです。そこで、「言葉では通じないことが写真では伝わる。写真は人と人が繋がるツールとして役に立っている。」と感じたそうです。

その後、友人のひと言で東日本大震災後の石巻市へ行き、あらゆる情報が錯そうする中で正しい情報を発信し「いろんなことを解決したい！」と現地の状況やボランティア情報などに関する写真を撮り続け、外へ情報を発信し続けられました。

そして、震災10年後、それまで撮りためた復興の記録を写真展として開催。約10年間分の写真3,400枚を小さなサイズにして展示し、自分が写っている写真を持ち帰られるようにしたそうです。そうしたところ約3,000枚が住民の手元に渡り、とても嬉しかったと共に「やっぱり、写真には人と人を繋ぐ力がある。」と感じたそうです。

写真展後は、石巻市の人たちの記念日に「いつ、どこで、誰と」をテーマに撮影を続けられており、これからも「喜びを増やすために写真を使いたい。」と講演を締めくくられました。



その地道な活動と優しさが溢れる写真が世界に評価され、アメリカ合衆国ワシントンD.C.での個展が決まり、ワシントンポスト紙の「The 23best things to do in D.C. this weekend and next week. (今週末と来週ワシントンD.C.でやるべきこと23選)」というコーナーで紹介されました。その他、「月刊誌 Washingtonian」にも紹介されています。

# 令和5年度 第 10 回 みとよkidsスタジオ



2月17日(土)第10回「みとよ kids スタジオ」が開催されました。

朝は厳しい冷え込みでしたが、帰る頃には気温がぐんと上がって春の暖かさが感じられました。今回も寒さを吹き飛ばすぐらい、子どもたちの明るい声が体育館いっぱいに響き渡っていました。子どもたちのニコニコ笑顔と元気な姿に私たちスタッフは、元気をもらい頑張るチカラになっています。それでは、活動の様子をご紹介します！まずは、ラジオ体操で体をほぐしました。



今回も四国学院大学の学生3名がお手伝いに来てくれました。近藤 郁弥お兄さん・圖子 愛菜お姉さん・三好 佑果お姉さんです。前回同様、子どもたちは大喜びです。

いつもなら清水幸一先生による「親子運動遊び」ですが、今回は、郁也お兄さんが考えてきてくれたジャンプを基本とした運動遊び・バランス運動遊びなどをしました。保護者があげた手に子どもがタッチをしたり、保護者が足を伸ばした状態で開いたり閉じたりしたところを子どもたちが足を閉じたり開いたりジャンプをしました。また、片足をあげてバランスを取り、その状態でツンツンとつき合いました。また、親子で足の裏を合わせて持ち上げバランスを上手にとる遊び、親子で向かい合って両足を広げて足裏を合わせて両手を繋ぎ、ぎっこんぱったん遊びもしました。初めての遊びに子どもたちの目が輝きます。



続きまして、愛菜お姉さんが考えてきてくれたボール遊びです。二列に分かれて、親子一組でボールを持って両手・片手で運んだり、新聞紙にボールを乗せて運んだり、ボールを落とさないように親子で声出し合って息を合わせ、慎重に運ぶことが出来ました。



次に「サーキット遊び」です。仲良く安全にサーキット遊びができるようにスタッフと3つの約束をしました。

- ① 前の人と同じ動きをする。
- ② 順番を守り、前の子を追い抜いたり押ししたりしない。
- ③ 頑張っている友達を待ってあげ、応援してあげる。

それでは、スタートです。

徐々に変化をつけていく遊具や運動に、子どもたちもどんどん対応できるようになっていきます。高い跳び箱からジャンプをするときは、身体の動きを止めて両足をそろえてからジャンプ、低い跳び箱では両手をついて開脚跳びをします。マット運動では前転、鉄棒では腕で支える、ロープを使ってレスキューなど難しい動きにもどんどん挑戦しました。子どもたちはどの遊びにもすぐに対応が出来るので、驚きの連続です。凄いです!!



サーキット遊びの後は、みんなで協力して片付けをしました。子どもたちが率先して片付けてくれたのであっという間に終わりました。

続いて絵本の読み聞かせの時間です。今日は、佑果お姉さんと愛菜お姉さんによる「ぐりとぐら」のおはなしです。小さい頃から何回も聞いて慣れ親しんだ本だと思いますが、子どもたちは静かに聞き入っていました。何回聞いても夢中になる味わい深い絵本で幸せな気分になりましたね。



「チクサクコール」の後は、親子でハイタッチ、先生や学生、スタッフとハイタッチできた子から順番に並んで「親子バディチェック」を一発でバッチリきめることが出来ました。



10回目の『みとよ kids スタジオ』はいかがだったでしょうか？  
学生のお兄さん・お姉さんたちと子どもたちはすっかり打ち解けて仲良くなり、楽しい時間を過ごすことが出来ました。また、遊びに来てくださいね。一緒に遊びましょう！  
来月は、今年度最後の「みとよ kids スタジオ」です。いつも通りの遊びのほか、小さな修了式も予定しております。楽しみにしててくださいね。  
次回も皆さんに会えることをスタッフ一同、心待ちにしています。

☆次回は、3月16日（土）三豊市総合体育館です。  
お待ちしております。

# 健康マーじゃん

2月20日(火曜日)、豊中町公民館講座「健康マーじゃん」教室が豊中町農村環境改善センターで開催されました。

健康マーじゃんは、「お金をかけない」「お酒を飲まない」「タバコを吸わない」を3原則として、脳の活性化やコミュニケーションの促進を目的としたマーじゃんのことです。

会社勤めの頃に腕を振るった方がマーじゃんを通じて新しい仲間を作るために、あるいは自分の時間が持てるようになった方が新しい趣味を通じて楽しく過ごすために参加されています。



計算や戦略を要するマーじゃんは、常に頭をフル回転させて考え、牌をつかむ、並べる、打つなど指先を使い、また、対戦中での会話やコミュニケーションが自然と生まれるなど、認知症予防や脳トレーニングにも効果的です。

対戦中は、腕を組んで深刻な表情で無言の方がいたり、「あと一步というところで揃わない!」「間違えてしまった!」と声を出される方がいたり、各々マーじゃんを楽しまれていました。

参加された方は「楽しい時間が過ごせているわ!」「教室を楽しみにしている!」「頭の体操、指の体操、認知症対策や!」「少しずつ出来るようになってるのが嬉しい!」といきいきと話をされていました。専門用語やルールを覚え、さまざまな「あがり」を経験され、更なる高みを目指して頑張ろうとされている姿は素敵でした!!